

ブルーギル *Lepomis macrochirus*

文：芦澤 淳（（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）



ブルーギルはオオクチバスと同様に在来生態系に悪影響を及ぼす北米原産の外来魚である。ブルーギルのオスは、繁殖期には岸边に集団で産卵床を形成する(コロニー)。オオクチバスと同様にオスが卵を保護する性質があるため、繁殖力が強い。

ブルーギルの問題 各地で釣りや池干しによる駆除が行なわれているが、池干しを行なっても、池干し後に流入水路等から再び侵入する可能性が指摘されており(西川ほか 2009)、一回の池干しで根絶するのは難しいようである。

伊豆沼・内沼における対策 伊豆沼・内沼では、近年ブルーギ

ルが増加傾向にあり、生態系への影響が懸念されている。ブルーギル対策としては、アイカゴ(カゴ罟)や電気ショッカーボート、人工産卵床(写真1)、稚魚すくい、釣り等による駆除を実施している。中でも効果を上げている駆除方法が、罎を用いたアイカゴによる駆除である(写真2)。ブルーギルは群れを形成する性質があるため、この性質を利用して、アイカゴの中に罎のブルーギルを入れておくと、効率良く捕獲できることが明らかになっている(藤本ほか 2010)。伊豆沼・内沼では、アイカゴによる捕獲とその他の駆除方法を合わせることで、ブルーギルの繁殖を抑制しつつある。



写真 1. 人工産卵床。卵を保護するオスごと引き上げられることがある。



写真 2. アイカゴ

西川 潮・今田美穂・赤坂宗光・高村典子. 2009. ため池の管理形態が水棲外来動物の分布に及ぼす影響. 陸水学雑誌 70:261 - 266.